六甲高山植物園～春を告げる純白の花～「ミズバショウ」の群落が見頃です！

六甲山観光株式会社（本社：神戸市　社長：寺西公彦）が運営する六甲高山植物園では、**春の訪れを告げる花「ミズバショウ」**の群落が見頃です。

北海道や東北地方など北国では、春を告げる花は「サクラ」ではなく、「ミズバショウ」や「コブシ」と言われます。六甲高山植物園でも、気温の上昇とともに次々にミズバショウが開花しています。

◆ミズバショウ（サトイモ科）

唱歌「夏の思い出」で有名なミズバショウ。尾瀬では初夏に見頃を迎えますが、当園では春を告げる花として人気を博しています。 最も目立つ白い部分は「仏炎苞（ぶつえんほう）」と呼ばれる葉が変形したものであり、その中に包まれるように咲く黄色い部分が花の集まりです。

六甲高山植物園では、約600株のミズバショウを自然に近い環境でご覧いただけるよう栽培しています。湿生区に広がる白く華やかな景色は、4月中旬までお楽しみいただける見込みです。

■春のイベント情報　六甲山ボタニカルフェア

開園９０周年特別企画「牧野の足あと　神戸で見つける博士と植物」

1933（昭和8）年に開園し、2023年5月1日で開園90周年を迎える当園には、開園当時、植物学者牧野富太郎博士が何度も来園し、講話などをしていました。先般、開園90周年記念として特別企画を開催、牧野博士直筆の書など初公開を含む約200点の資料を展示します。また、隣接する ROKKO 森の音ミュージアムでは「牧野富太郎のみちくさ～音楽、書、人々との交流～」を開催します。牧野博士は、NHK2023年度前期連続テレビ小説「らんまん」の主人公のモデルにもなっています。

【開催日】開催中～7月2日（日）　**【時　間】**10：00～17：00（16：30入園受付終了）
【参加費】無料（別途入園料要）
★2枚目にも見頃の花の情報があります！

◆リリースに関するお問い合わせ先
六甲高山植物園
TEL:078－891－1247／FAX:078－891－0137／〒657－0101　神戸市灘区六甲山町北六甲4512－150

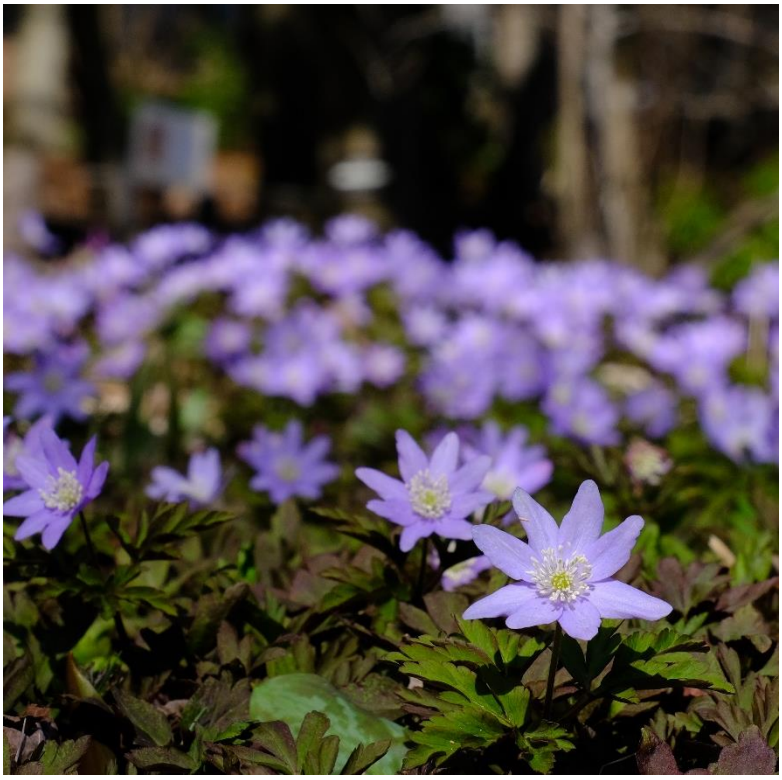
◆営業概要(2023年)
【開園期間】 ～11月23日(木・祝) ※休園日あり。HP を要確認。【開園時間】10：00～17：00（16：30 受付終了）
【入 園 料】 大人（中学生以上）900円 ／ 小人（4歳～小学生）450円
【駐車料金】1，000円、繁忙日（GW）：2，000円
※荒天により営業・イベントの内容を変更・中止する場合があります。

六甲高山植物園
春の花々がぞくぞく開花！

◆カタクリ（ユリ科）

北海道～九州の山林原野に広く群生し、晴天時のみ開花する多年草です。葉などの地上部があるのは林床の明るい５月までで、その後は翌春まで休眠します。こういった生活周期の植物をスプリング・エフェメラル（春の儚いもの）と呼び、キクザキイチゲもそれにあたります。６枚の花被片を大きくそりかえし、うつむきかげんに咲くやさしい春の花です。高さ10～20cmの花茎に１輪の花を咲かせますが、種から開花するまでは7、８年ほどかかります。昔は**片栗粉の原料**として用いられ、この鱗茎より製した質の良い澱粉が使用されていましたが、現在はジャガイモの澱粉で代用されます。

園内では**約5，000株**が随時開花し、４月中旬までお楽しみいただける見込みです。



◆キクザキイチゲ（キンポウゲ科）

落葉広葉樹林帯の林床に生える多年草です。15cmほどの花茎に一つだけ花を咲かせることからついた和名です。花は晴天時のみ開き、雨や曇りでは閉じたままです。媒介者である昆虫の少ない時に、雨や風から花粉を守るためと考えられます。

園内では樹林区のあちこちで**群落が見頃**を迎え、今シーズンより開通した新規園路はキクザキイチゲ群落の南側に位置し、正面から群落を楽しんでいただけます。

４月上旬までお楽しみいただける見込みです。